



学校だより 令和3年7月20日 No. 291

柏崎市立柏崎小学校

柏崎市学校町 1 番 88 号

TEL0257-22-2196 FAX0257-24-0304

HP<http://kedu.kenet.ed.jp/hakushou/>

E-mail hakushou@kenet.ed.jp



学校だよりA4版へ（創刊号を調べてみました）

学校だよりは、校長室の棚に創刊号から現在までを保存し、記録として保管しています。学校だより創刊号は昭和 61 年 5 月 15 日発行で、印刷業者に発注したものでした。当時の藤原治郎校長先生の「『進んでやりぬく子』を目指して」のタイトルで巻頭言が書かれていました。学校だよりは 3 回発行していました。今回から、教職員の働き方改革の一環として、A4 版裏表で作成させていただきます。広く閲覧していただけるように、HP（ホームページ）に載せる等の工夫をいたします。御理解をお願いいたします。

じかに体温を感じること

校長 竹田 充

柏小にヤギが来ました。毎日 1、2 年生が楽しそうに世話しています。しっかり食べてフンをして、運動して寝て…その営みが生きることなんだと、改めて考えさせられます。動物の飼育をとおして、よく見て触って、生き物の体温をじかに感じてほしいと願っています。

かつて 2 年生を担当したとき、もぎたてのキュウリを教室でほおばった子どもが、「こんなにうまいもん、はじめて食べた！」「超、楽しい授業です！」と叫んだ表情が忘れられません。

稲作と豚の飼育に同時並行で挑戦した 5 年生が、植物と動物の生命のちがいについて考え、「家畜であってもぼくたちは食べられない」と結論を出したときの顔も忘れられません。

学校教育では、命の大切さにつながる授業を、それぞれの学年の学習内容にちりばめています。栽培・飼育活動はもちろん、理科ではチョウやメダカの観察、受粉の学習もあります。保健分野では「あなたという人が生まれてくる天文学的な確率」についても学びます。

国語の教科書には、「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」「ごんぎつね」「やまなし」など、生と死を描き、心が打ち震えるような物語教材が載っています。また、社会科では戦争の悲惨さを追体験し、防災や SDGs についても学習します。道徳でも敬虔さを感じられる時間をとっています。

1 年生から 6 年生まで、こうした学びを発達段階に応じて積み重ねることで、一人一人が命の尊さを実感し、誰が何と言おうと、自他の命を守ることが最優先なんだと考えられるようになってほしいと思います。

ただ、私自身、本気でそうしたことを考えるようになったのは、家族や友人、身近な人の死を経験してからのことでした。そして今、コロナ禍の影響もあり、日常的にバーチャルな空間、仮想現実といったものが、子供たちを囲んでいます。私たちが実際に生きているこの世界では、命は決してリセットできない、かけがえのないものだということを、大人になる前に心に刻み込む必要があると考えます。

豊かな自然体験や生命の神秘さに触れる機会は、夏休み中も家庭や地域の中にたくさんあると思います。柏崎小学校では、これからも感染予防に最大限留意しながら、相手（対象）の体温がこの手で感じられる経験を大切にしていきますので、さらなる御協力をお願いいたします。

